

かたりかけることば ふれあうところ しあわせひろがる

～「ブックスタート」。それは、しあわせづくりのきっかけ～

赤ちゃんにとっては、
見るもの聞くものすべてがはじめて。
希望に満ちた未来に向けて、
歩みはじめたばかりです。

そんな赤ちゃんへ
読み聞かせをはじめてもらおうと、
あたたかなメッセージとともに
絵本を手渡す活動、
それがブックスタートです。

ことばの意味はまだ理解できなくても、
愛情を込めて語りかけることばは、
きっと赤ちゃんに伝わります。

絵を見つめたり、
声に耳を澄ましたり、
赤ちゃん一人一人の
繊細な感覚で
感じとることでしょう。



絵本には、彩りあふれる
豊かなことばがたくさん詰まっています。

赤ちゃんと一緒に、
絵本の中の優しいことばを共有し、
ところを通わせながら
ふれあいのひとときを過ごして欲しい、
これがブックスタートに込められた
切なる願いです。

本と一緒に読むことは、
その楽しいひとときを「分かち合う」こと。
そう、本を「読む」(read book)のではなく、
気持ちを「分かち合う」(share book)こと。

本を読むことは、親子のふれあい、
家族のふれあい、地域のふれあいに。

ブックスタートは、
みんなのしあわせづくりのきっかけ。
本を読むことを通して、
みんなのしあわせがひろがりますように。

ブックスタートって、なんだろう？

ブックスタートは、赤ちゃんと保護者に、絵本や
子育てに関する資料などが入った「ブックスタートパ
ック」を“手渡す”活動です。

1992年にイギリスで始まり、日本では、2000年の「子
ども読書年」をきっかけに紹介されました。

湯河原町では、平成15年度からこの活動を始め、
これまでに1,009人もの人にブックスタートパックを
手渡してきました。

ブックスタートの効果について、発案者であるウェ
ンディ・クーリング氏は、『本を読むことの楽しさ
を親子で分かち合い、自分のことを愛している人がペ
ージをめくっている、これが自分のことを愛してくれ
ている人の声なんだな、こういう時間は気持ちいいな、

と感じて、それから次第に本っていいものだな、と
思い始める。』と語っています。

また、児童文学者でNPO法人ブックスタートの
理事長でもある松居直氏は、『生まれてはじめて読
むブックスタートでの本
は、精神的な“へその緒”
のようなもので、出生証
明と同じです。親にとっ
ても子どもにとっても一
生の記念で、自分の確か
なルーツになります。』
と著書の中で記していま
す。



《ブックスタートパックの一例》